

「カンタン英語で学ぶブッダの教え」オンライン研修終了報告

第一支部運営委員会

2020年9月12日(土) 12:50-15:40に、表記オンライン研修が実施され、全国各地からご参加頂きました。(参加者合計54名:会員49名、非会員3名、委員2名) 講師の大來尚順師は、龍谷大学ご卒業後渡米され、米国仏教大学院修士課程終了後、ハーバード大学研究員を経てご帰国され、現在、著述家、翻訳家としてご活躍されている新進気鋭の仏教研究者であり、かつ、山口県にあるご実家の浄土真宗本願寺派、大見山超勝寺のご住職も務めておられます。ご著書には「超カンタン英語で仏教がよくわかる」、「訳せない日本語」他、多数あります。研修の前半は仏教の基礎知識、後半は仏教思想を英語での表現を交えて講義されました。外国の方から、キリスト教と仏教の基本的な違いは何かと聞かれた時の、外国人への説明として、「キリスト教では神と人間は契約で結ばれている二元性(Dualism)であるのに対し、仏教は人が仏になれる一元性(Non-Dualism)である」との説明が理解され易いとのことでした。仏教はかつて仏道と呼ばれ、仏=真理に目覚めた覚者(Awakened One)になる為の教えであるとのこと。インド北部で成立した仏教は、その後、北伝仏教(Northern Buddhism)として、中国から韓国を通過して日本へ伝わり、大乘仏教(Mahayana Buddhism)とも言われます。一方、スリランカやタイ、ミャンマー等の東南アジア方面に伝わった南伝仏教(Southern Buddhism)は上座部仏教(Theravada Buddhism)、或は、小乗仏教(Hinayana Buddhism)とも呼ばれます。一方、ネパール、チベット方面には金剛乗(Vajrayana Buddhism)という密教(Esoteric Buddhism)が伝わったとのことでした。仏教の特徴は多様性(Flexibility)であり、どの国の文化、習俗ともぶつからず、その地の独自の仏教が形成され、日本でも日本仏教が成立したとのことでした。仏教の目指す「悟り」の英訳には Enlightenment, Awakening, Realization 等があるが、Satori とそのままに言うこともできるとのことです。仏教の教えの四諦(諦=真実)の苦諦、集諦、滅諦、道諦: Four Noble Truth とは、苦=Dukkha=Unsatisfactory mind=「不満の心」から解き放たれる為の教えとのこと。その為には、八正道(Eightfold Noble Path)を実践することが必要。「正」とは「自分の先入観に偏らない」=Authentic の意味とのことでした。具体的には以下の実践が必要となる。

正見: Right View 正思惟: Right Thought 正語: Right Speech 正業: Right Action
正命: Right Livelihood 正精進: Right Effort 正念: Right Mindfulness 正定: Right Meditation

又、大乘仏教を特徴付ける四つの教えは「四法印」と呼ばれ、それは「諸行無常=Life is impermanent」「諸法無我=Life is interdependent」「一切皆苦=All things in this world are suffering」「涅槃寂靜=Nirvana is quiescence」のことです。

お釈迦様が最後に残された教え: 自灯明=Rely on yourself、法灯明=Rely on the Dharma(Truth) 今回の研修で仏教をよりよく説明できるようになったことと思います。

